

シンジョー・セントラル・ハウジング

集合住宅と既存環境要素の混成による城郭都市の再構成

【はじめに】 地方都市には、城郭や水堀等の史跡を中心として形成された市街地が多く見られる。これらは本来、地域に歴史的、空間的なアイデンティティを与え得る重要な環境要素といえるが、多くの場合、空間的コンセプトや建築プログラムの曖昧な公園として整備されており、このことが地方都市の住環境を貧しいものとする一因となっていると考えられる。近年、都市のスプロール化(図1)により郊外に住み替える人々が増加するなかで、地域に固有の環境要素を見直し、それらと建築との空間構成上、プログラム上の関係を検討することが、中心市街地に住環境を回復する上で重要であると思われる。こうした認識のもと、本計画では、城壁、堀割等の史跡が現存し、かつ城跡周辺部が適度に市街化された山形県新庄市を敷地とし、既存の環境要素を保存・活用することを通して、活気に満ちた住環境をもつ城郭都市の再構成を提案する。

【新庄市中心部の環境構成】 ここでは、中心市街地の地域環境に大きな影響を与える環境要素に注目し、新庄市中心部の地域環境を概観する。

中心市街地を構成する環境要素 新庄市中心部は、城跡周辺の水堀や土塁、石垣などの自然に関する要素と、公共施設等の人工的な要素が混成し地域環境が構成されている(図2)。本丸跡地は、水堀(図3)や土塁等の史跡が比較的良好な状態で現存し、三の丸跡地は新庄中学校、市民文化会館、新庄ふるさと歴史センター等の公共施設として利用されている。付近は低層の住宅地となっており、空き地や駐車場の目立つ住環境といえる。

現在の中心市街地の環境構成 史跡や公共施設の周辺は、公園や広場、グラウンドなどの使用用途の限定された外部空間として整備されており(図4)、中心市街地の空洞化を助長しているように思われる。本来、地域に歴史的、空間的な個性を与えるこれらの要素に隣接するといった、この地域の独自性が十分に生かされているとはいえない。これらの外部空間が城跡を中心に整備されることにより、中心市街地に、建築プログラムや空間的な魅力に乏しい大規模な空地が生じている(図5)。そこで、史跡周辺の緑地、オープンスペースのあり方を再考することにより、城跡、公共施設、まちがより緊密に結びつけられた地域環境を提案することが可能となると考えられる。

【集合住宅と既存環境要素の混成による城郭都市の再構成】 ここまでの検討を踏まえ、建築物と地形、植栽等の要素の混成による城郭都市中心部の住まい方を設計プロジェクトとして提案する。

計画方法 城跡やその周辺のオープンスペースは、周辺の住民にとって憩いの場となるだけではなく、コミュニティの形成、市民のスポーツ大会等のアクティビティの誘発といった生活と結びつくことで、住環境を豊かなものにする可能性があるといえる。そこで、既存の地域環境は維持し、城跡とまちとの境界に、公共施設を囲い込むような植栽、街区を縁取るようなガレージ等6種のランドスケープ(図6)を計画することにより、現在、希薄になった城跡、公共施設とまちとの関係を緊密にし、地域環境を再構成することを提案する。

シンジョー・セントラル・ハウジング 前述の方法に従い、城跡と様々な空間構成上、プログラム上の関係をもつ、建築化されたランドスケープを提案する。



図1. 新庄市周辺図 建て売り住宅の大量建設や大型商業施設の進出等により、まちが外周部に広がる傾向が見られる。郊外に住み替える人々が増加する流れのなかで、まちの中心部での住まい方は見直される必要があると考えられる。

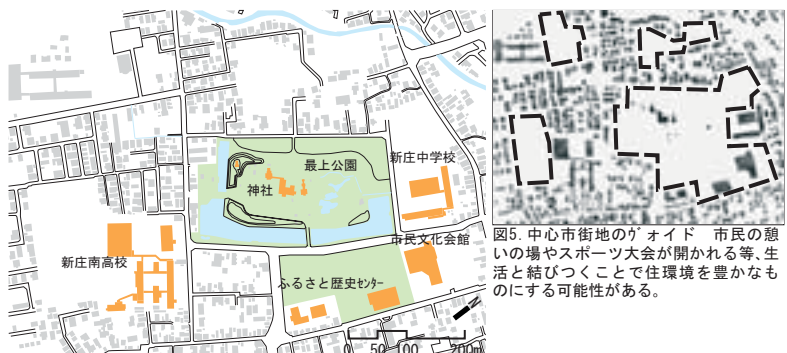


図2. 現在の新庄市の城跡周辺 水堀や土塁などの自然に関する要素と、公共施設等の人工的な要素が混成し、中心市街地の地域環境が構成されている。



図3. 現存する水堀 水堀や土塁が現存する城跡は史跡



図4. ふるさと歴史センター周辺の外部空間 公共施設や公園として整備されており、周辺住民の憩いの場とな 城跡周辺のオープンスペースは、空間コンセプトや建築プログラムの曖昧な公園として整備されている。

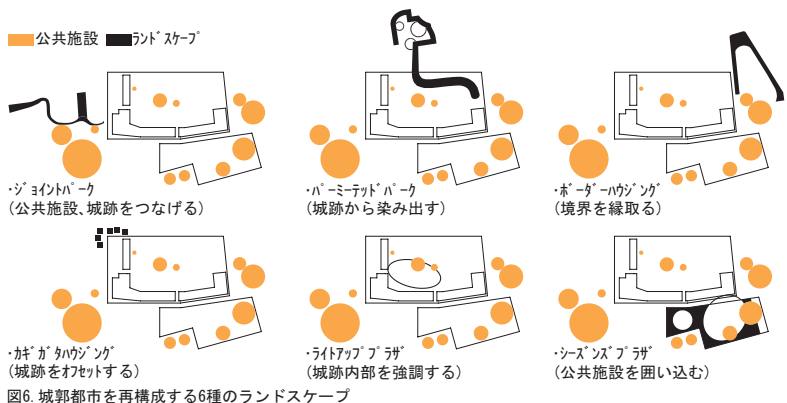
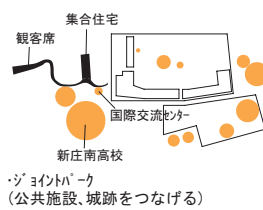
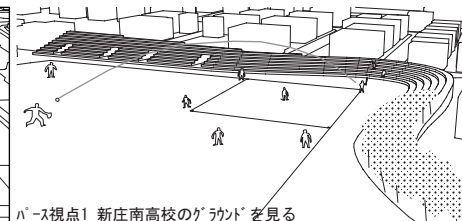
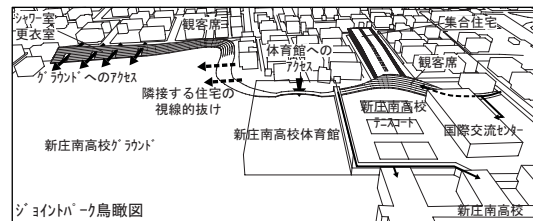


図6. 城郭都市を再構成する6種のランドスケープ

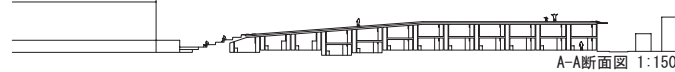
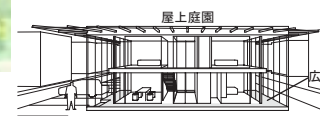
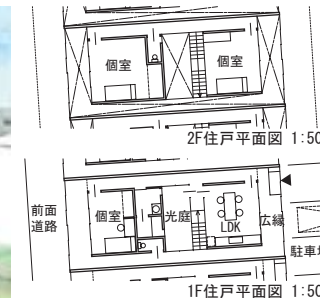




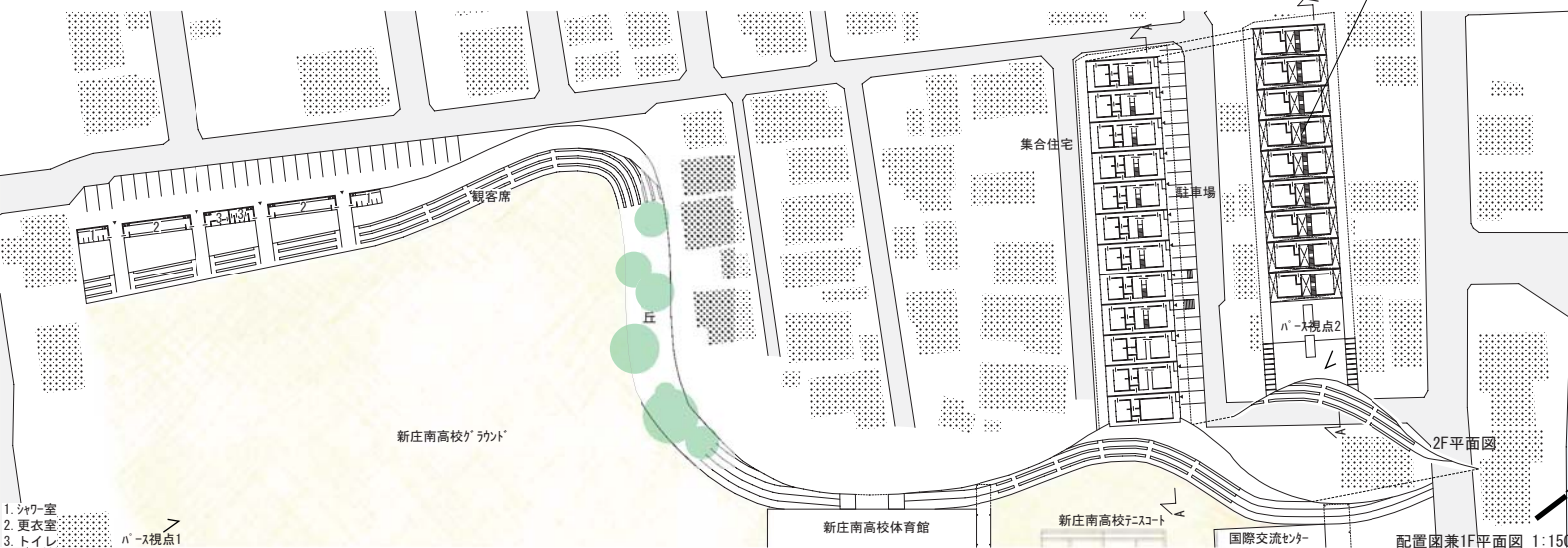
ジョイントパーク 新庄南高校のグラウンド、体育館、校舎への連絡通路、国際交流センターに隣接する線状のヴォリュームを配置し、流動的な空間を構築する。線状のヴォリュームは、隣接する要素に対し、観客席、スロープ、植栽、公共施設へのエントランス、集合住宅のヴォリュームと、その形状を変化させ、起伏に富んだシーケンスを形成する。学校に観客席等の建築プログラム付加し、グラウンドと体育館を一般に開放することにより、従来の固定化された使用用途の公共施設とは異なるあり方を提案する。



パース視点2 一般に開放された新庄南高校のテニスコートや体育館を望むことができる。



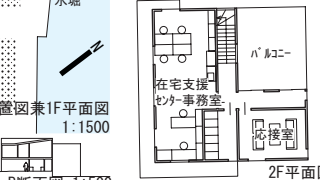
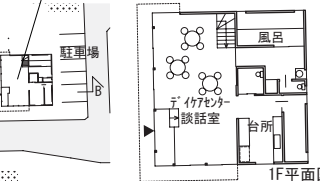
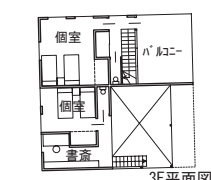
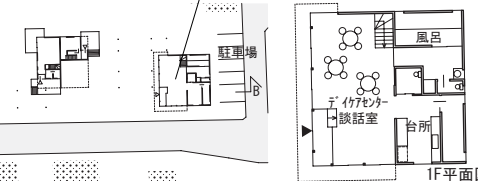
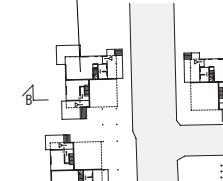
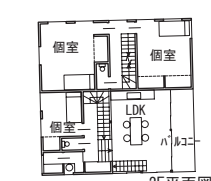
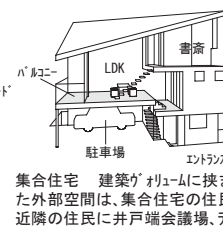
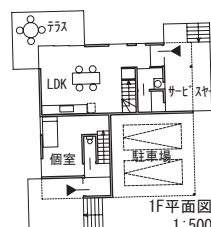
住戸パース ヴォリュームの屋上は各住戸の庭として利用される。居室の周囲には広縁が設けられ、冬季は断熱層の役割を果たす。



1. シャワー室
2. 更衣室
3. トイレ



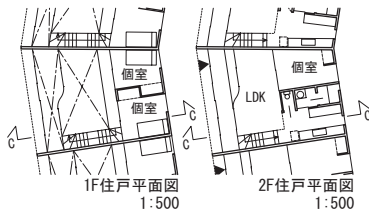
かきがハウジング 城跡に隣接する住宅地に、セミタクトタイプの集合住宅地を計画する。連立する建築ヴォリュームにはデイケアセンター、在宅介護支援センターが組み込まれ、緑地に隣接するという良質の環境を生かした、周辺地域の拠点が形成される。



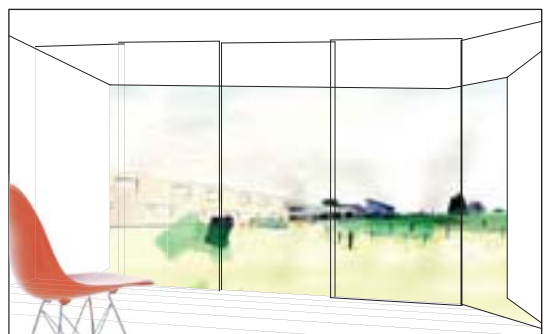
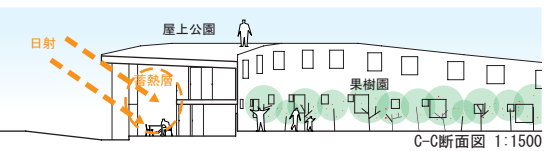
配置図兼1F平面図 1:1500
B-B断面図 1:500



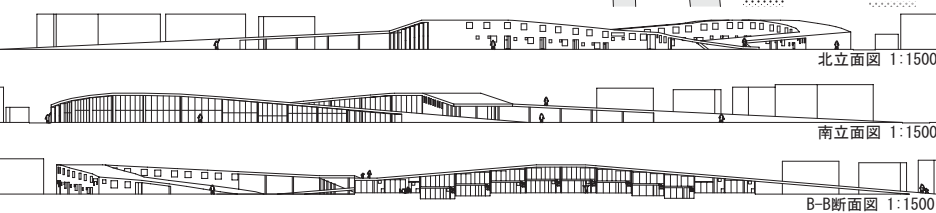
ハーミテッドパーク 城址公園西側の空堀から、隣接する空き地に連続する線状の空間を計画する。新庄の花であるあじさいや、桜並木に縁取られた空堀は市民の散歩コースとなる。空き地を縁取るように配置された集合住宅のヴォリュームは、屋上公園となっており、起伏に富んだスケインスを望めるとともに、中庭の果樹園と一体となったランドスケープを形成する。



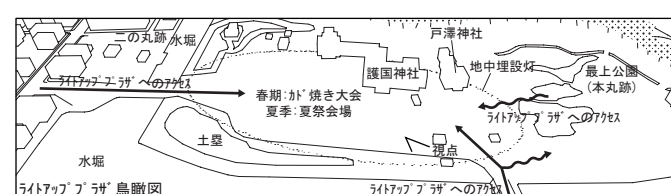
集合住宅 空き地を縁取るように配置された集合住宅のヴォリュームは、屋上が公園となっており、周辺住民の散歩コースとなっている。各住戸は南側に広縁が設けられ、冬季は蓄熱層の役割を果たす。



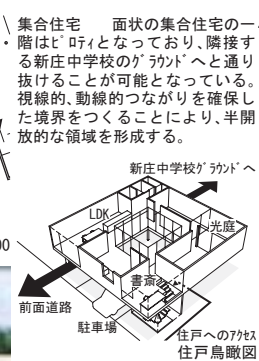
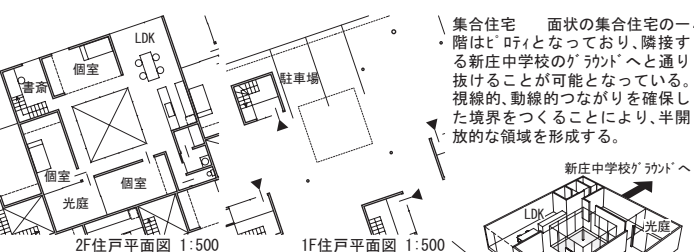
パース:住戸から中庭の果樹園を見る 果樹園と集合住宅のヴォリュームが一体となったラント・スケープを眺望できる。



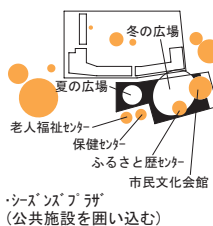
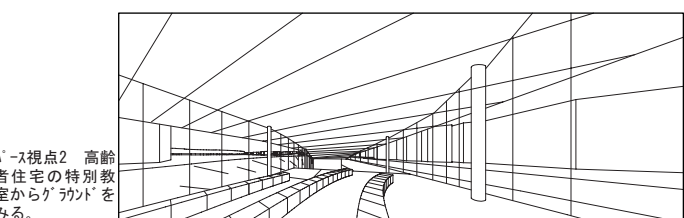
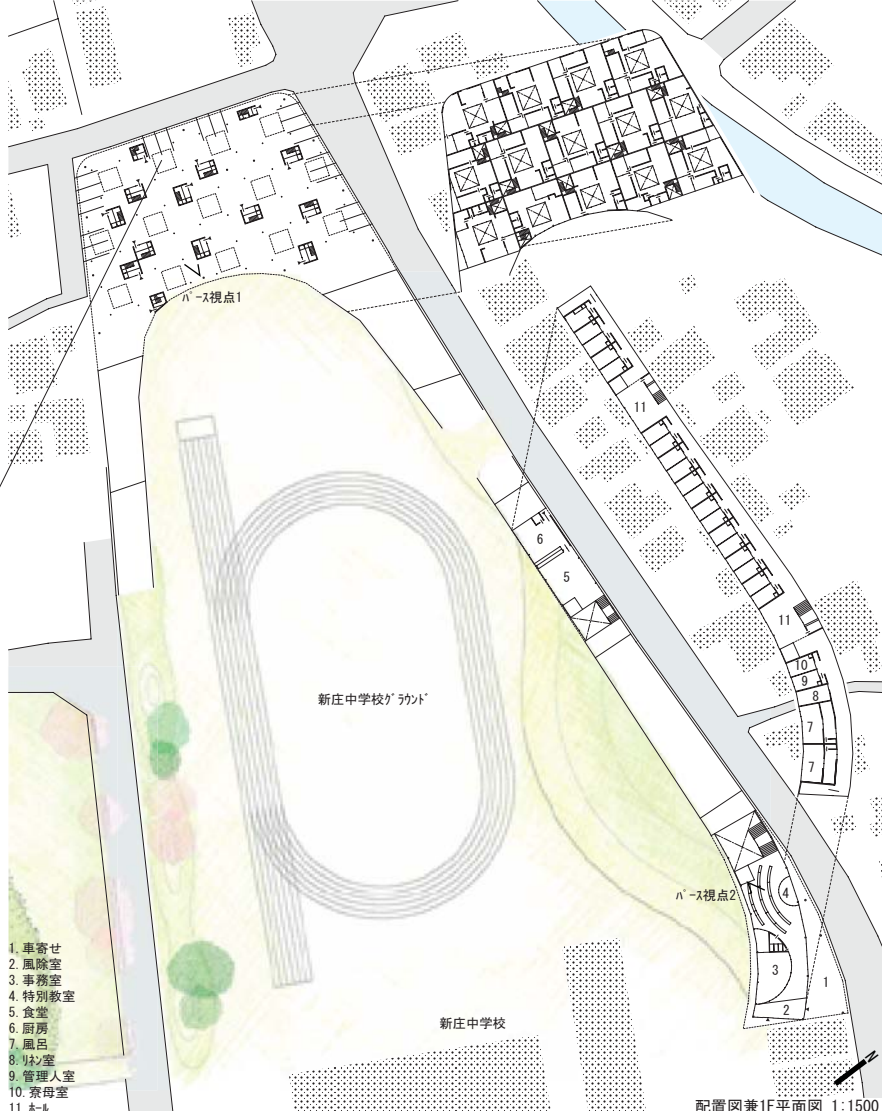
ライトアップ・プラザ 水堀、土塁に囲まれた神社境内に地中埋設灯で領域化された外部空間を計画する。春期は火（ニシ）焼き大会の会場、また夏季は祭祭り会場として使用される。史跡がライトアップされ、強調されることにより、周辺住民が城跡に対してより意識的になり、水堀、土塁に囲まれた当地の空間的な閉鎖性が緩和される。



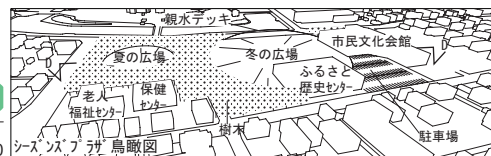
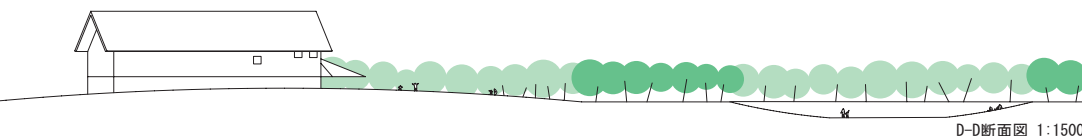
ボーダーハウジング 新庄中学校とまちとの敷地境界に、集合住宅及び高齢者住宅のヴォリュームを配置することにより、半開放的な領域を形成する。動線、視線のつながりが確保されることで、新庄中学校を週末教室として一般に開放することが可能となる。また境界に配置された高齢者住宅は、新庄中学校の生徒に対し、介護体験や老人を講師にした特別教室等の課外授業の場となる。



パース視点1 集合住宅下部は通り抜けることができ、新庄中学校のグラウンドへと連続する。



シーズンプラザ 市民文化会館、新庄ふるさと歴史センター周辺を植栽、デッキ等で囲い込むことにより、二つの広場を計画する。起伏がつけられた「冬の広場」「夏の広場」は、それぞれ冬季の雪祭り、雪合戦会場、夏季の夏祭り、天体観測に利用される。このことにより、現在市民の憩いの場となっている当地の性格をよりいっそう強調することができる。



〔むすび〕 本計画ではまちと城跡とを、建築と植栽が一体となったランドスケープにより緊密に関係づけることで、地域のコミュニティを再構成し、城郭都市中心部における住環境を提案した。このことは、地方都市における建築と緑地等により成立する環境構成の、新たな可能性を示すものとする。